事務事業評価シート(多可町教育委員会)

担当課	課長名	記入者
管理(那珂ふれあい館) 課	萬浪佳隆	中西麻理子

1 事務事業の概要 ＜Plan①＞

事務事業名	新規・継続		事業開始年度		完了予定年度	
「歴史・伝統文化・自然・交流」を柱に体験イベントの充実		新規	年度		年度	
	○	継続	○	H19以前		未定

計画掲載					
多可町総合計画	(章)	2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節)	2 学ぼう、活かそう	
	(基本計画)	生涯学習を推進する			
個別計画					

根拠法令・条例・要綱等	事業区分 (該当する区分に「○」)			
多可町ビジターセンター条例	○	ソフト事業		施設の維持管理
		義務的事業		内部管理事務
事務事業の具体的内容		建設・整備事業		計画などの策定

東山古墳群に隣接する当館は、地域の歴史学習の拠点施設として勾玉作りや土器作り、火起こし体験をはじめ、ぞうり作りなど伝統文化にも触れる体験学習を行っている。又、折々には住民のニーズにも合った内容も盛り込み、ボランティアサポーターが自分の習得した技術を生かせる場ともなっている。学ぶ側もいきいき学べ、ともに交流の場を通し人づくり・まち作りにつながる様々な学習機会の提供を行っている。

補助金の支給				
		有	○	無

委託				
		全部委託		一部委託
	○	委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 ＜Plan②＞

対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
職員・町民	町民	施設の周知を図り、生涯学習成果の活用の場とする

3 事務事業にかかる予算細目 ＜Plan③＞

会計名	一般 会計													
細目名	那珂ふれあい館運営事業				細目名					細目名				
予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節
	10	5	4	1										

4 事務事業実施にかかるコスト ＜Do①＞

事務事業・人員			単位	19年度 決算	20年度 見込	21 年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			千円	6,184	6,059	5,943	
コストの内訳	直接事業費		千円	1,340	1,193	1,143	
	所属内間接費		千円	4,844	4,866	4,800	
	投入人員	正職員	人/年	4.00	2.00	2.00	
		嘱託員	人/年	0.01	0.01	0.01	
財源内訳	国・県支出金		千円	0	0	0	【特定財源内訳】 使用料・受講料・材料代
	地方債		千円	0	0	0	
	その他特定財源		千円	367	394	400	
	一般財源		千円	5,817	5,665	5,543	

5 事務事業の手段＜Plan④＞と活動指標 ＜Do②＞

	事務事業を構成する業務	手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	ｲﾍﾞﾝﾄｻﾎﾟｰﾀｰの育成	広報・かみTV・HPで周知募集する	ｲﾍﾞﾝﾄｻﾎﾟｰﾀｰの登録数	人	2	2	3
2	ｲﾍﾞﾝﾄ企画調整事務		ｲﾍﾞﾝﾄ実施回数	回	246	252	200
3	人材の発掘		年間集客数	人	14,476	15,132	15,000
4	多可ふれあいﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾞｲﾄﾞ運営事務		多可ふれあいﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾞｲﾄﾞ登録数	人	35	35	35
5	企画調整会議事務	定期的な会議を行う	運営会議回数	回	0	1	3

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 ＜Do③＞

事務事業名 ［「歴史･伝統文化･自然･交流」を柱に体験イベントの充実］

成果指標(意図の数値化)	単位	19年度実績	20年度実績	21年度目標	備考(成果指標の考え方･計算方法)
自主ｲﾍﾞﾝﾄ実施回数	回	246	252	200	地域の歴史学習の拠点施設として勾玉作りや土器作り、ぞうり作りなど伝統文化にも触れる体験学習を行っている。又、住民のニーズにも合った内容も盛り込み、教える側の技術を生かせる場でもあり学ぶ側もいきいき学べ、ともに交流の場を通し人づくり･まち作りにつながる学習機会の提供を行っている。
年間集客数	人	14,476	15,132	15,000	

7 事務事業の事後評価 ＜Check＞ (ソフト事業)

チェック項目			該当項目に「○」						担当の把握している課題
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	○	高い		高くない		把握なし	住民のニーズには十分応えきれてはいない。どんなものが求められているのかをもっと情報収集しなければいけない。民間でも色々似たような教室があるが当館に比べ高料金である。
		緊急性は		高い	○	高くない			
		利用者･対象者数は		増加		減少	○	横ばい	
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない	○	ある		把握なし	
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		ない	○	ある			
		国や県の事業(サービス)との重複は		ない	○	ある			
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		ない	○	ある			緑に囲まれた良好な自然環境の中で体験でき、しかも低料金である。こども対象の事業の中で同類事業については子ども課･公民館等と調整し行うこととした。
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○	ある			
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○	ない		ある		把握なし	
	連携の可能性	他課で類似の事業は		ない	○	ある			
		他の事業と統合できる可能性は		ない		ある	○	あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	○	ない		ある		あるが困難	
		市民団体･ボランティアなどと協働できる余地は		ない	○	ある		あるが困難	
効率性	手段･プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない	○	ある			講師のあるイベントについては負担のない金額で参加者から徴収し講師料に充当することとした(100円)
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		ｻｰﾋﾞｽ向上の観点から実施方法を見直す余地は	○	ない		ある			
		受益者負担を見直す余地は		ない		ある			
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで	○	ある		ない			親子で来られるイベントが多いが、イベントを通し一つの物を完成させる喜びを親子が共通してもてる場として有効な事業と認識している。
		前年より成果が上がって		いる		いない	○	横ばい	
	持続の可能性	継続することによる効果は	○	高い		高くない			
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○	いる		いない		測定困難	
		事業の休･廃止による住民への影響は	○	大きい		大きくない			

市場化の可能性				
	既に全部委託済	更なる委託化が可能である	委託化の余地があり	委託化は不可能
	○ 市場化テストの導入について検討する余地がある		市場化テストの導入を検討する余地はない	

改善の可能性			
	1.改善の余地はない	○	2.改善の余地がややある
	3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要

8 改善提案と今後の改善の方向性 ＜Action＞

職場からの意見	今後の具体的な取り組み
(課題の解決についての提案など) (施策を取り巻く環境) 体験イベントのボランテァ講師の不足･･町内にいろいろな技術を持っていながら埋もれている人の発掘また、固定の講師ではないので確保が難しい。 (課題解決についての提案など) コスト面においては講師付きのイベントについては参加者に負担のない金額(100円)を徴収することとし、講師付きのイベントについては講師主導で、また当館主導のイベントについてはサポーターになっていただいている方を中心に進めていく。イベント会議を開催していき新たなメニューの企画、運営を担えるスタッフ養成を目指したい。	(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 伝えなければならない伝統文化の継承事業と単なる体験教室とを区別しながら、また、他施設と競合する講座については統合･廃止をしながら事業展開をしていきたい。 講師については、ボランティア意識の高い方が多いことから自主運営講座を増やし、館としては場所の提供をしていくことで、ひとつの文化サロン的な活動を推進し、横の広がりができるようにしていきたい。 古墳まつり、芸能フェスタ等のイベントを継続させながら、地域に密着した特色を活かし来館者の増加を図りたい。
	自己評価　3　(目標は達成されている)

今後の方向性								
		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討
		5. 統合･連携を検討		6. 休止･廃止を検討		7. 終了･完了		